

生活困窮者の支援市のはたす役割が重要

松尾信次議員は、代表質問で生活保護についてとりあげました。

国と地方団体代表の

間で「生活保護の縮小へ向けて検討、努力する」ことが確認された中で、申請を拒否された北九州市での餓死事件、保護申請を却下された秋田市での練炭自

殺事件などがおきている。公的なセーフティネットをどう生かし、

生活困窮者をどう支援していくのか市の姿勢が問われるとし、次の

点について質問しました。

制度の周知は不可欠

第一に、生活保護制

度の周知をすすめるこ

と。日本弁護士連合会

がドイツ、イギリス、

韓国の生活保護制度の

現地調査を実施したと

ころ、三つの国とも、

パンフレットや申請書

を公共機関などに置

き、生活苦全般に対応

する相談所やコールセ

ンターを設けて、情報

提供につとめている。

生活保護は本人による

申請を基本としている

。そのために制度の

周知は不可欠であり、

生活保護制度を紹介す

るパンフレットをつ

つたりして、制度の周

知をはかること。

第二は、本人の申請

意志があれば、生活保

護を申請できるように

すること。

第三に、申請の際の

第三者同席について

は、申請者本人が希望

すれば認めるべきで、

一律的な規制はやめる

こと。

第四に、ケースワ

ーカーの増員、専門職

をふやすこと。

松尾議員が代表質問で 生活保護制度の改善もとめる



命の重みをしつかり受けとめ

府政対策委員長 太田くみ子

この間、多くの人たちから切実な声を聞かせていただきました。お年寄りからは、「医

者にかかるお金が無い・・・障害のある子どもがいる親は、「この子より先に死ねない・

・」。また、「私は年金暮らして、息子はいつまでも仕事につけない・・・」どれも待ったなしの叫びです。

今、政治が命を奪っています。

託された思い、命の重みをしつかりと受けとめ、寝屋川市民の声がとどく府政、くらしを守る府政実現へがんばります。



議員日誌



田中ひさ子

市会議員におくりに出していただき、四月末で八年となりま

ら詳しく聞き、市とのやり取りを行い解決できると安堵するとともに、自分のことのようにうれしくなります。

この間、市民のみなさんからの相談は、大変、厳しいくらしの実態となっていま

これからも引き続きみなさんの声を聞き、市政に反映できるようにがんばります。

何とか生活できるようにと、相談者か

ます。